

ひょう害に対する今後の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

県内では5月28日に中通り地方を中心に降ひょうがあり、野菜や葉たばこ、果樹でひょう害が発生しました。

被害を受けたほ場では被害状況を確認し、栽培管理や防除などを徹底しましょう。

今後とも、気象情報等に注意し、農作物の管理に努めましょう。

【野菜】

1 被害後の対策

(1) 共通

野菜は生育ステージにより回復力が異なるので、被害程度を的確に把握し、早期の対策に努めましょう。

ア 茎葉に被害を受けた場合、軟腐病などの細菌性病害や灰色かび病などが発生しやすいので早急に薬剤散布を行いましょう。

イ 草勢回復のため、速効性肥料の追肥（灌注）や液肥の葉面散布を行いましょう。

ウ 被害程度が重く回復する可能性が低い場合は、他作物への転換や播き直しを行いましょう。

エ 하우스やトンネルの被覆資材が損傷した場合は、早期に補修しましょう。

(2) 主な品目別技術対策

ア サヤエンドウ

被害を受けたサヤや茎葉を取り除き、速効性肥料の追肥や葉面散布を行い、草勢の回復を図ります。また、倒伏したものは、再度誘引し直しましょう。

イ ブロccoli

花蕾に傷がついたものは、軟腐病の発生原因となるので、出荷しないようにしましょう。

ウ ピーマン

主枝が折れた場合には、新葉と側枝の発生を促し、側枝のうち強いものを主枝としましょう。

エ キュウリ

定植後に被害を受けた場合は、草勢回復のため、傷のついた果実（雌花）を摘果し、着果負担の軽減を図りましょう。

また、主枝が折れた場合には、新葉と側枝の発生を促し、側枝のうち強いものを主枝としてください。

折れた茎葉は、新葉の発生を確認してから、摘葉整理しましょう。

2 今後の被害防止対策

降ひょうが予想される気象情報が発表された場合、品目や生育ステージにもよりますが、応急的対応としてトンネルやべたがけ資材を事前に被覆しましょう。

【 果 樹 】

ひょう害では、葉や果実に甚大な被害を受けることがありますが、果樹の種類や生育ステージによっては回復することもあります。被害状況を確認するとともに、被害を受けた場合は栽培管理や防除などを徹底しましょう。

1 被害後の対策

- (1) 葉、新梢、果実の損傷が激しい場合は、樹の負担を軽くするため損傷程度の重い果実を摘果します。果実や樹体の損傷程度を勘案し、着果量を調整しましょう。
- (2) 新梢の折損の程度が激しい場合には、葉腋芽のあるところまで切り戻し、腋芽の発芽を促しましょう。新梢が被害を受けると徒長枝が発生しやすくなりますので、適切に管理しましょう。
- (3) 降ひょうにより枝葉や果実に傷がつくと、傷口から病原菌が侵入しやすくなりますので、被害の多少に関わらず防除指針に従い速やかに薬剤散布を実施しましょう。なお、散布は樹冠内部まで薬液が届くようにていねいに行いましょう。
- (4) 樹勢回復のために追肥を行うと、樹が強勢となり樹勢のコントロールが困難になりますので追肥は行わないようにしましょう。
ただし、新梢のほとんどが折損するなどの被害を受けた場合は、追肥を行い発芽を促進します。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください)

URL http://wwwcs.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet;jsessionid=60B9664125C7AECACD4199F8C85610?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=000004&CONTENTS_ID=22752

モバイル県庁：福島モバイル県庁→お知らせ・各種情報→農業技術情報
(右欄に掲載のQRコードよりご覧ください)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング
情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>



モバイル版 QRコード